

# ESD レポート

Education for Sustainable Development

# vol. 10

2007 初春

2007年1月15日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」—— それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。



平和教育



自然保護教育

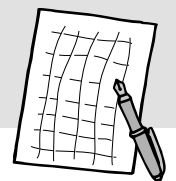


食農教育

(左上) 長崎にて被爆者の方から当時の話を伺う

(右上) 丸の内オフィス街で昼休み観察会

(左下) 無農薬でつくる学校田の草取り作業



## 特集 ESD シナリオづくりプロジェクト その2

# 私と〇〇教育 ESD への「大きなシナリオ」を描く

### 目次

#### ■特集

ESD シナリオづくりプロジェクト その2 私と〇〇教育 ESD への「大きなシナリオ」を描く ..... p2

#### ■シリーズ 学びの場をデザインする2

地域に学び 地域に還す 富山高専学生・学校・地域の学びの連鎖 ..... p4

■ ESD なんでも相談室 2 ..... p4

Q.持続可能な社会をつくるために、なぜ教育が重要なのでしょうか?

■ ESD 基本用語集 10 ..... p5

GNH (国民総幸福量) 市民教育

■ ESD INFORMATION ..... p6

《地域》足元の“あるもの”に気づき、磨いて光らせる

《国際》ESD ネットワークが中国にも誕生しました

《情報》ESD がよくわからない!という方に朗報です

■ ESD-] だより ..... p7

2006年11月から12月の活動報告

出展団体募集! ESD 全国ミーティング

ESD 関東セミナーのご案内

■ ESD へのメッセージ! ..... p8

大地を守る会 藤田和芳

ワークショップ企画プロデューサー 中野民夫

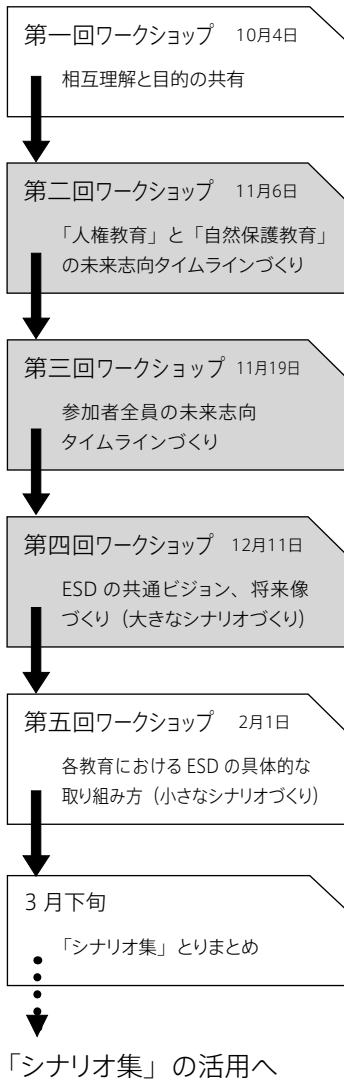
NPO 法人キーパーソン 21 朝山あつこ



# 私と〇〇教育 ESDへの「大きなシナリオ」を描く

環境教育、福祉教育、人権教育、平和教育など、地球や地域の課題に取り組むさまざまな教育活動の、共通エッセンスを探ることでESDの本質に迫り、連携のあり方を見出す「ESD シナリオづくりプロジェクト」。第二回から第四回のワークショップでは、各人がそれぞれの教育活動につながる元となった原点、出会い、今、そして未来を語り合い、ESDに向かう「大きなシナリオづくり」に取り組みました。

## シナリオづくりプロジェクトのすすめ方



## 大きなシナリオ・小さなシナリオ

このプロジェクトでは、既存の教育活動をESDにつなげてゆくシナリオを二つに分けて考えています。「大きなシナリオ」づくりとは、さまざまな教育分野の人たちが共有できるコアな価値観や方法論、そしてそれぞれが直面している壁を乗り越えるための「飛躍のカギ」を探り出すことによって、ESDへ向かう大きな流れ・ビジョンのようなものを描くこと。〇〇教育にかかわる人それぞれがもつ、歴史(事件や失敗、教訓、現在直面している壁など)・学習手法・大切にしている価値・育みたい力などを、多様性を認めながら互いに学び合うことで、共有しようとしています。

そしてその大きなシナリオの方向性に沿って、それぞれの教育の今ある具体的な活動やプログラムをどのように展開させていくか、その展開例が「小さなシナリオ」です。

## 「未来志向タイムライン」づくり

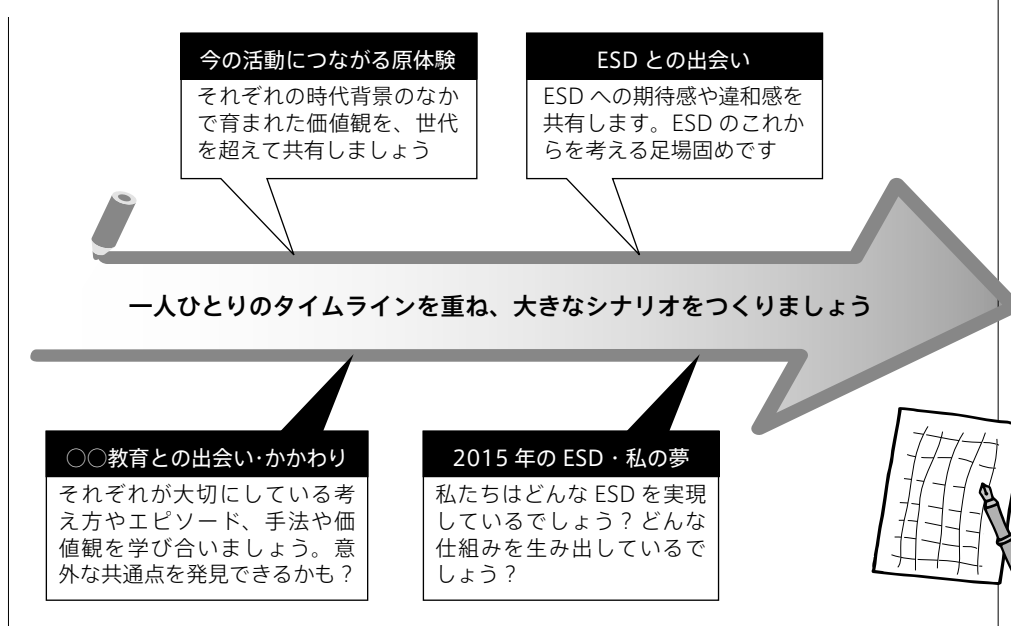
第二回から第四回にかけての作業の中心は「未来志向タイムライン」づくり。参加者一人ひとりが〇〇教育およびESDとのかかわりを見つめなおし、生まれてから2015年まで、未来を含めた自分史を書き起こします。そのエッセンスを「聞き書き」という方法で抽出し合い、全員で大きな年表(=タイムライン)を作成、これを眺めながら、ESDにつながるさまざまな教育のこれまでとこれからを共有しようという作業です。

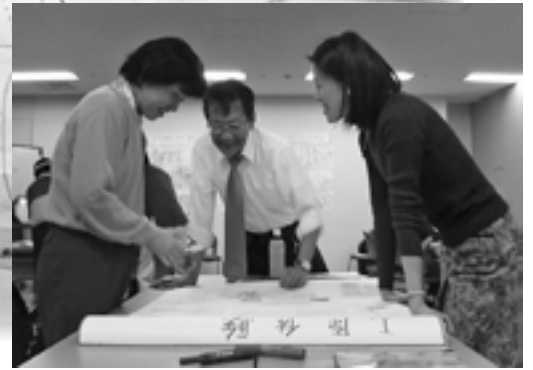
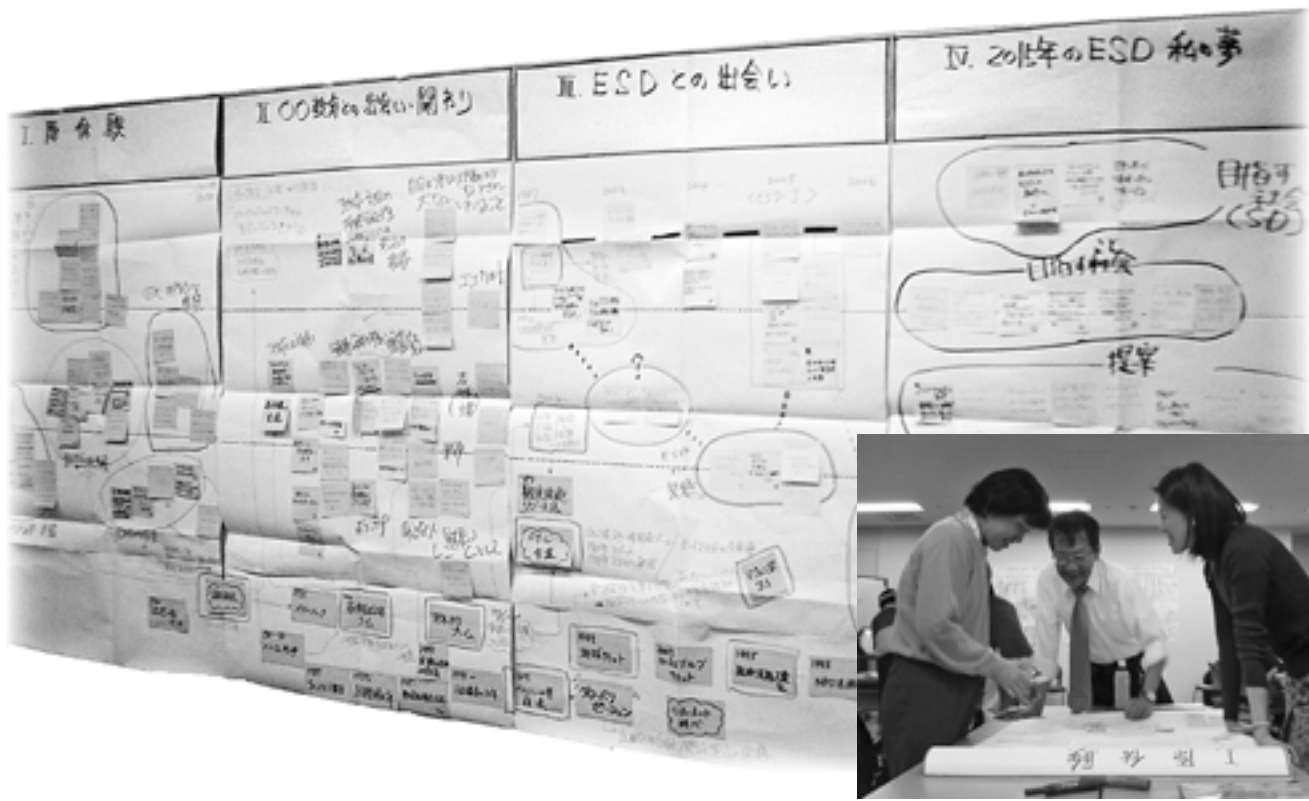
ここでは第四回のワークショップで話し合われた内容を、一部ご紹介しましょう。(全文はウェブサイトをご覧ください)

## 原体験、〇〇教育・ESDとの出会い

“原体験”では、高度経済成長のワクワク感を共有しつつも、社会が生み出すひずみに出会ったときの違和感、それに立ち向かう活動に触れたときの高揚感などがうかがえる、多様な体験が紹介されました。

## ESDにつながる「未来志向タイムライン」4つのフェーズ





“〇〇教育との出会い・かわり”では、活動のなかで大切にしている「方法」や「価値観」についてもキーワードがだされました。教育の方法と価値観は不可分であり、これらをもっと掘り下げて学び合うことで、連携してESDに取り組むことの意味や可能性をみつけられるのではないかと思います。

“ESDとの出会い”では、ESDに感じた違和感や期待感について話し合いました。ESDは、環境分野のイメージが強く、福祉分野の人には関係ないと思われがちであること、手つかずの自然を大切に守るだけではない、人の暮らしとの関係のなかでの幅の広い自然保護のあり方を普及するためには使えるキーワードであること、「教育」には一方通行的なイメージがあり「学習」のほうがフィットすると感じること、などが指摘されました。ESDが広がっていくためには、分野を超えてイメージをだし合い、わかりやすい日本語を創っていく必要があります。

### 2015年のESD・私の夢

「お互いの弱さを認め合えることで、いじめや虐待が減っている」「多様性が尊重されている」「若者と南の人が希望をもてる」「自分たちの未来を自分たちでつくるのが楽しいと思える」「市民参加が実現している」など、さまざまな未来像が挙げられました。そしてそれらを実現していく

ために「さまざまな社会運動が互いに敬意を払いつつ視野を拡大する」「あらゆる年齢層や文化・社会的背景を超えて学び合う」「環境・開発・平和・人権をつなぐネットワークを拡大する」「小・中・高校でESDを正式な科目にする」「市民が教育・政策をつくる」などが提案されました。

課題は、めざす社会像と現在の取組み状況とのギャップが大きく、その間をどう積み上げていくのかがみえていないこと。ESDをたんなるキャンペーンで終わらせるのではなく、法律や政策を変えていくこともターゲットにしたい、という意見を皮切りに、なにを実現すべきかについて議論が続きました。

過去の国連キャンペーンで実質的な成果を挙げた一つに「国際障害者年(1981)」から障害者権利条約(2006)づくりにつながる運動があると指摘したのは、ヒューライツ大阪の前川実さん。「完全参加と平等」を求め、障害者は助けをあげる存在ではなく、地域とともに生きる仲間である、その理念を教育の世界で体現するためにすすめられたのが普通学級への障害児の受け入れ促進でした。

ESDでは市民活動や地域活動と学校教育や社会教育をつなぐことが大切だと、多くの人が指摘しています。例えばそれを制度化することはできないでしょうか。福祉教育の世界では、地域の社会福祉協議会がつなぎ役になって学校との

連携がすすんでいます。しかし現場では、「自分たちの暮らしを豊かにしていくことにつながる学び」を実現するのは簡単ではなく、今後、体験を継続的な学びにつなげるプログラムを学校の先生とともに積み重ねていきたいと考えているとのこと。一方、協議会がテーマの幅を広げることで、学校でのESDにつなげていける可能性をもっている、という期待が膨らむ発言もありました。

### あなたの地域でもシナリオづくりを

時間をかけ、方法も試行錯誤しながら取り組んできた「大きなシナリオづくり」ですが、互いの教育活動だけでなく、参加メンバー同士の理解を深める貴重な機会にもなりました。ここで育まれた関係性がベースとなって、「あの人と組んでみたいな」「この分野のことを学びたいな」という「小さなシナリオづくり」につながる動きが生まれることが期待できます。

ぜひみなさんの地域でも、異なる立場の人たちと一緒に、この「大きなシナリオづくり」に取り組んでみませんか？個人の体験や思いを共有し、ともに未来を描く作業は、今の教育活動をESDにつなげていくときの基盤をつくることになるでしょう。

今回はこれまでの成果をベースに、「小さなシナリオ」づくりに挑戦する予定です。

# 地域に学び 地域に還す

## 富山高専学生・学校・地域の学びの連鎖

富山工業高等専門学校

富山工業高等専門学校では、「専攻科特別演習授業、通称 PBL (Problem-Based Learning)」という、とても興味深い授業が行われています。この授業のコンセプトは「地域に役立つ・ひとに優しいものづくり」。19名の学生が地域とかかわりながら、実にいきいきとものづくりをしています。

### 学校だけでは十分に学べない

「地域に求められるものづくりを、地域の人たちと話し、その学び合うプロセスを授業にすることができないだろうか？」そんな担当教員らの熱い思いから、この授業は始まりました。

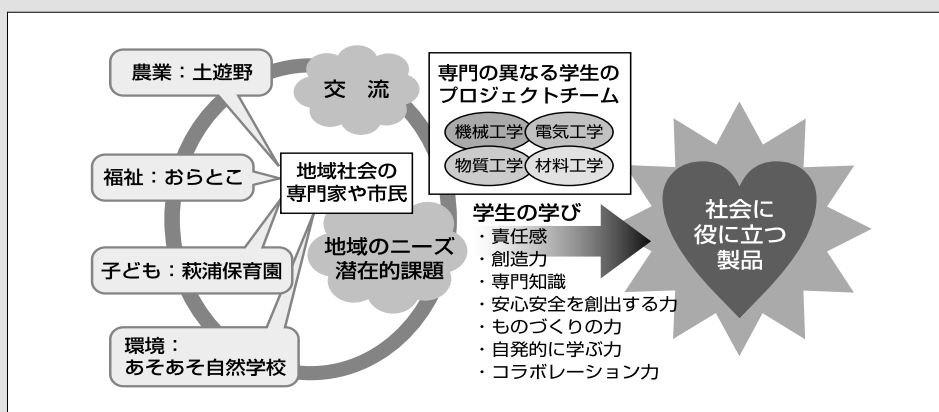
コミュニケーションの苦手な技術系の学生に、いきなり参加型授業・ワークショップは難しいと考え、まず学生への問いかけから始めました。「地域の人たちが困っていることはなんだろう？ 自分たちの技術力でできることはないだろうか？」。これまで考えたこともなかった問いかけに、学生たちは戸惑いました。しかし、じっくり彼らに話しかけ、地域の人との出会いの場を設け、地域の人びとの熱い志に触れてもらううちに、自分たちの存在価値をみいだしたのです。「自分たちの技術や学んだことが、誰かに役立つかもしれない」。学

生のまなざしは変わり、学びの欲求が高まり始めました。

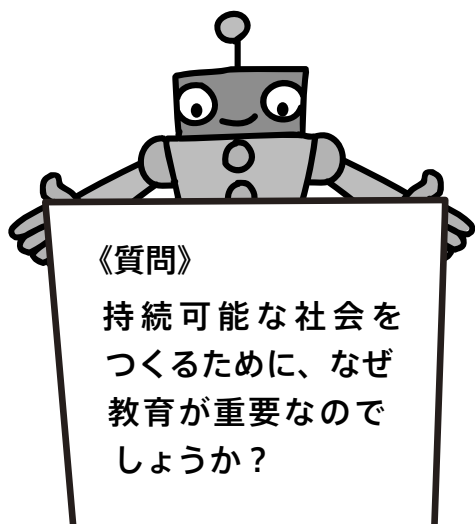
### 参加型・地域連携型の教育スタイルへ

今年で三年目となるこの授業は年々進化しています。一年目は迷いながらすすめた

こともあり、ものづくりまでたどり着けませんでした。その反省と課題を踏まえ、担当教員らは新しい教授法を開発していきました。「先行きや効果が不確実なものもあるが、活動のほとんどを学生の自主性に任せている。教員らは学びのファシリテーターと、地域社会とのコーディネーターに徹している。この授業は、学生と教員との信頼



## ESD なんでも相談室②



### お答えします

現在、多くの人々は、持続不可能な地球の状態に気づきつつあります。しかし、それを解決するのは他の誰かで、自分自身ではないと感じている人がほとんどです。一方で、電気を節約しなさい、差別をしてはいけません、と知識やモラルを伝えるだけでは根本的な解決にはつながりません。今の社会の問題を自分自身で考え、さまざまな人たちと協力し、よりよい方向へ主体的に変えようとする価値観や能力を育てること。遠回りのようですが、<教育＝人づくり>こそ、社会のしくみを私たち市民の力で変え、持続可能な社会へとつなげるとても重要な営みなのです。

※みなさんもESDに関する疑問や質問を事務局までお寄せください。

## ESDを知ろう



UNESCO ESD マスコット「DDくん」

関係で成り立っている」。そして、うまくいかない部分に真剣に向き合い、「なんとかしよう」としている学生の姿に、技術者としての責任感の芽生えと学びへの意欲を感じました。

従来の知識詰め込み型の教育スタイルから、参加型・地域連携型に方向転換させることは容易ではありません。しかし、学生の変化や地域の人たちの評価によって、担当教員らは自信をつけていきました。学生、教員、地域の人たちの距離感が縮まり、その学びの連鎖が、少しずつ地域にも波及しています。

### かかった人たちの声～学生の皆さん

「今までは受身の授業ばかりで学ぶことが面白いとなかなか思えなかったけど、この授業は自分たちの興味ですすめ方などを決めることができるし、地域の人たちの話を聞くと視野が広がるのでやる気になります。『役に立っている』という実感があるし、ものをつくっていても、相手の顔が見えるので、なんとかよいものを……と思います。チーム内で意見の食い違いなどもありますが、なんとか調整してすすめています。話すことが苦手だったけどその大切さにも気づきました」。(取材報告：新海洋子)



#### 富山工業高等専門学校

実践的かつ創造的技術者の育成をめざし、産学の共同研究や企業技術者の育成支援など地域貢献にも力を注ぐ高等専門学校。

URL <http://www.toyama-nct.ac.jp/>



### 技術者のタマゴがつくった道具 (抜粋・2006年8月現在 未完成品を含む) .....

#### ●リハビリ用「頭のプロテイン」〈協働開発先：おらとこ〉

「おらとこ」は、子どもからお年寄り、障がいのある人ない人、いろいろな人が訪れるサービス施設で、まちづくりの拠点でもあります。誰もが参加できる遊び道具、脳の活性化や指先の運動につながるように視覚や聴覚に刺激のあるもの、みずからの判断が必要になるおもちゃを考えました。



#### ●田で働くメカアイガモ〈協働開発先：土遊野農場〉

土遊野農場は、地域循環型農業を実践し、米づくりにアイガモ農法を取り入れています。しかし、アイガモ農法にはコストや手間がかかるため、アイガモの働きをするロボットをつくることにしました。アイガモは足ひれで水田の土を攪拌して、酸素を供給したり、雑草が生えないようにしたりします。



※掲載した富山高専の事例は、ESDの入門テキストブック「未来をつくる『人』を育てよう」に詳細が掲載されています。<http://www.esd-j.org/esd-text/>

## ESD 基本用語集 vol.10

ESDを読み解くためのキーワード。こんな言葉も実はESDにつながっています。

### GNH (国民総幸福量)

Gross National Happinessの略で「国民総幸福量」と訳される。GNHは「幸福」を指標化するものというよりも、従来の経済発展が、格差の拡大や環境の破壊、文化の喪失などをもたらすものであることを指摘し、豊かさとはなにかを問い直す視点を提起した点で注目を集めている。1976年にブータンのワンチュク国王が「GNP(国民総生産)よりもGNHのほうが重要である」と述べたことで、世界的に知られた。ブータンでは、GNHを具体化する開発の原則として、(1) 平等で均等な経済成長と開発、(2) 文化遺産の保護と伝統文化の継承・振興、(3) 自然環境の保全、(4) グッド・ガバナンス(市民参加型の統治)、がある。(野田恵)

### 市民教育

市民教育は、Citizenship Educationの訳で、英国で2002年から中等学校段階に新しい教科として導入された。従来行われてきたボランティア学習やインターンシップ(職業体験学習)など教科横断的な学習活動が素地となっており、英国が労働党政権に移行したことも実現への大きな推進力となった。カリキュラムのねらいは、「社会的責任」「地域社会への参加」「政治的理解力」の3点。子どもたちが地域社会にかかわり、社会を変えていく市民となるための教育として期待されている。(上條直美)

## 地域

## 足元の“あるもの”に気づき、磨いて光らせる ～地域ミーティング in 水俣

熊本県ネイチャーゲーム協会 小里アリサ

2006年11月26日、水俣市でESD地域ミーティングを行いました。水俣に事務局を置く当会が、自然への気づきから、人と人との結びつき、地域づくりへのかかわりを模索するなかで、地元の人びとに呼びかけたものです。水俣で地域づくりや水俣病にかかわる人、ネイチャーゲーム関係者など20人が集まりました。

ESDとネイチャーゲーム。どちらもカタカナで、なじみのない言葉です。名前が英語やカタカナだったりすると、それだけでも「なんな、そら？」と警戒心がはたらくのが水俣の常。ネ

イチャーゲームは一緒にやってみればわかる、ESDも話を聞けば、「ああ、水俣で今やっていることがそうなんだね」と、うなずいてもらえます。しかし、もっと身近なモノやコトと結びつけて理解してもらおうと、山形県朝日町で日本で初めてのエコミュージアムを展開してきた西澤信雄さんと、水俣市の元づくり推進室で村丸ごと生活博物館に取り組んできた天野舞子さんのお話を聞き、話し合うことにしました。

朝日町でも水俣市でもやったことは、自分の足元をみつめなおすことから、住んでいるまちや地域の自然や生活文化に

誇りを持ち、それを生かす生活スタイルを確立していくことでした。住んでいる人たちが元気になり、訪れた人との交流から農産加工所ができるなど、ものづくりもすすんでいます。

「ないものねだりではなく、あるものに気づき、磨いて光らせる」とは、水俣の吉本哲郎さんが提唱する地元学の考え方ですが、2つの事例はその取組みが持続可能な地域をつくることを示しています。

ESDを広めるには、なじみのない言葉を地域にあるものにつないで、なじませていくことが必要だと思います。ネイチャーゲームも同様です。「あるものに気

## 国際

## ESD ネットワークが中国にも誕生しました

環境・国際研究会 小寺正明 (ESD-J 国際 PT メンバー)

2006年7月16日、「国連持続可能な開発のための教育の10年」中国民間協力ネットワーク（以下ESD-Cと略す）が正式に設立されました。ESD-Cは自然之友と78の中国国内の民間団体、教育機関および個人が発起人になり設立したものです。設立の儀式では、ユネスコ北京事務所長青島泰之氏の祝辞のあと、発起人代表が、ESD-C設立宣言でネットワークの趣旨、使命、活動範囲などについて述べ、参加した発起人全員が宣言文に署名し、設立を確認しました。

また、ESD-Cは11月4・5日に北京で持続可能な開発のための教育者ワークショップを開催、中国全土からNGOの代表、教員など約70名が集まり議論を行いました。日本からはESD-J事務局長の村上千里氏、宮城教育大学の見上一幸教授、北区子ども感動コミュニティ機構（東京都）の橋本弥寿子氏、そして環境・国際研究会から私の計4名が参加しました。

一日目は、日本と中国からESDの事例について発表があり、両国のESDの現状を学び合いました。二日目は5つの分科

会に分かれ、地域や学校におけるESDの展開方法やESD-Cの今後のすすめ方などについて討論がもたれました。

ワークショップ終了後、ESD-C準備委員会（執行委員会）が開かれ、①ESD-Cの2007年の活動計画および今後3年間の発展方針、②ESD-Cの会則の制定（ESD-C顧問グループの設置を含む）、③ESD-Cの位置づけ（資源を統合しESD-Cをさらに発展させる必要性）について話し合いました。その結果、(1)準備委員会を毎週

## 情報

## ESDがよくわからない!という方に朗報です

ESD入門テキスト「未来をつくる『人』を育てよう」が完成しました。

学校教育、社会教育、民間教育、市民活動にかかわる方に向けて、「ESDってなに？」という疑問に、誰もがシンプルに答えられるよう、この冊子はつくられました。ここには、みなさんの教育や地域づくりにESDを活かすためのヒントがあります。あなたも一緒に、地球の未来のために必要な「人」の育て方について考えてください。

## ■第1章 地球の未来のために

1. 持続しないもの……
2. 豊かで人間らしい暮らしを考える
3. なぜ「教育」なのでしょう？

## ■第2章 ESDという教育

1. ESDという教育の大きな枠組み
2. ESDの進め方
3. すでにスタートしているESDの取り組み

## ■第3章 学びの場のデザイン

1. 学校と地域のつながりが育む伝統という学び
2. 浜松に生きる日系ブラジル人・ペルー人高校生によるミューラル・プロジェクト
3. 地域に学び 地域に還す 富山高専学生 学校 地域の学びの連鎖
4. 放置自転車で平和構築 松山の「銃を鋤へ」プロジェクト
5. 中越地震の被災地、山古志村のふるさと復興から学ぶ







地域ミーティングに先立ち、吉本哲郎さんに「地元学」のお話を聞く

づく」ことは、ネイチャーゲームと地域とのかかわりを考えるうえでも重要なポイントになります。地域ミーティングの開催は、“私たちの持続可能な暮らしに向けて ESD やネイチャーゲームがしっくりなじむものになるために”、を考える大きなステップとなりました。

(TEL&FAX 0966-63-0960)



定期的に関くこと、(2) 事務局を自然之友に置き、自然之友から ESD-C の会則を提案し、それを元にすすめること、(3) 準備委員会の分科会をつくること、の三点が決まり、具体的な組織づくりに向けた議論が始まりました。

今後、さらに多分野から多くの NGO・個人が参加し、自立して歩いていくよう期待しています。なお ESD-C ネットワークの活

A5 サイズ 全 64 ページ

一般価格 : 500 円 (税込み)

会員価格 : 450 円 (税込み)

1 月 31 日まで早期割引実施中!

その他注文数に応じた割引プランもあります。また、10 冊以上お申込みの方には、本テキストブックと連動した ESD 解説用のプレゼンテーションデータ (ppt) を差し上げます。(プレゼンテーションデータの配布は 1 月末ごろを予定しています)。

詳細は下記 WEB サイトをご覧ください。

URL: [www.esd-j.org/esd-text/](http://www.esd-j.org/esd-text/)

# ESD-J だより

## 2006 年 11 月から 12 月の活動報告

- 11 月 19 日・12 月 11 日 第三回・第四回シナリオづくりプロジェクト開催  
〇〇教育の歴史や経験を束ね、共有し、ESD につながる「大きなシナリオ」をつくるワークショップを開催しました。(p2-3 参照)
- 11 月 26 日 水俣地域ミーティング共催 (地域支援プロジェクト)  
「住んでいる人が主役の地域づくり」をテーマに、熊本ネイチャーゲーム協会と共催。(p6 参照)
- 12 月 5 日 情報 PT ミーティング開催  
ESD レポート 10 号の企画および「ESD レポート」の制作体制について話し合いました。
- 12 月 17 日 地域コーディネーターミーティング 開催  
今年度の地域支援事業の評価と、来年度に向けた方針、3 月に開催予定の全国ミーティングのあり方などについて議論しました。
- 12 月 17 日 国際 PT ミーティング開催  
ESD-AP のすすめ方、もっと気軽に参加できる国際 PT の活動「ESD カフェ」のアイデアなどについて議論しました。
- 12 月 17 日 2006 年度第三回理事会開催  
今年度事業の見直し、全国ミーティングの企画、来年度事業の方針などについて議論しました。
- 《その他》  
環境省環境教育担当者研修 (11 月 7 日)、広島大学付属高等学校研究大会 (11 月 11 日)、東北環境パートナーシップオフィス設立記念 ESD セミナー (11 月 15 日)、大阪市人権教育担当者研修 (11 月 28 日)、ふちのべ塾 (12 月 20 日) などに講師派遣しました。

## 出展団体募集!

### ～ ESD-J 全国ミーティング

## トピックス

今年も ESD-J 全国ミーティングの季節が巡ってきました。午前は地域での ESD の展開事例やシナリオプロジェクトの成果を共有、午後は「地域での ESD 推進」「ESD 国際 PT カフェ」「政策検討円卓会議」「ESD 入門」などの分科会で議論を深める予定です。そして昨年好評だった、会員団体のみなさんが ESD につながるどのような活動をしているのかを知り合うポスターセッション & ランチ交流会。今年も同じ会場で、パネル出展してくださる団体を募集します。詳しくはウェブサイトにのご案内いたします。

■日時: 3 月 18 日 (日) 10:00 ~ 17:00

■会場: JICA 市ヶ谷総合研修センター (最寄り駅: JR 市ヶ谷駅・東京都)

## ESD 関東セミナーのご案内 [参加費無料]

環境省関東地方環境事務所主催の関東セミナー「ESD - 未来をつくる教育 - を地域からはじめよう」を ESD-J が企画協力します。「ESD とはなにか」をわかりやすくお伝えするとともに、ESD 促進のために各省が計画・実施している施策を紹介し、学ぶだけでなく、実践につながる内容になる予定です。

■日時: 2 月 14 日 (水) 13:30 ~ 17:00

■場所: さいたま市宇宙劇場 研修室 1・2 (最寄り駅: JR 大宮駅)

■基調講演「持続可能な社会のための教育を地域から (仮)」

東京学芸大学教授 小澤紀美子氏

事例紹介 1 ラーニングバケーション「都市と農村の交流」という学び

事例紹介 2 学校を地域にひらく ~ 秋津小学校の 10 年 ~

地域の ESD を促進する施策の紹介 ~ 各省の来年度予算から

## まともな食べ物と農業を次世代に

大地を守る会は、農業や化学肥料をなるべく使わない農業をすすめています。安全な農産物を生産するということは、そこに棲むミミズやホタル、ドジョウとも共存するという事です。人間だけがこの地球に単独で生きられるはずもありません。あらゆる生命は、さまざまな生態系のなかで生き、生かされているのです。だから私たちは、環境問題や地球温暖化の問題、遺伝子組み換え食品、原発に反対する運動などに取り組んできました。

そして今もっとも大切なことは、私たちの世代だけでなく次代やその後の世代の人たちが飢えることのないよう、食べ物やその生産基盤を残してあげることだと思います。子どもたちが「自分の生き方と結びつく学び」ができる場をつくり、生命の大切さを伝えていきましょう。

大地を守る会 藤田 和芳



藤田 和芳 (ふじた かずよし)  
1947年岩手県生まれ。現在、大地を守る会会長、(株)大地代表取締役、「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表などを兼任。著書に『農業の出番だ!』(ダイアモンド社)、『ダイコン一本からの革命』(工作舎)などがある。

## 私たちがESD-Jに入ったわけ

### 多様な「私にできること」の相乗効果を

ワークショップ企画プロデューサー&会社員  
中野 民夫

2002年に、ESD-Jの前身ともいえるヨハネスブルグサミット提言フォーラムにかかわったおかげで、サミット現地へのツアーにも参加しました。そこで、北の国も南の国も、政治も企業もNGOも、世界の課題は「持続可能な開発」であることを、はっきりと確認しました。以降、会社の仕事でも個人の仕事でも、「持続可能性」が究極のテーマだと思っています。

また、ワークショップやファシリテーションなど、一人ひとりの経験や思いを引き出し、参加・体験・相互作用のなかで大きな学びや創造や行動に編み上げていく「参加型の場づくり」は、持続可能な社会のための「共通基礎文法」ではないかと思っています。多様な方々が集うESD-Jは、それぞれ「自分のできること」に取り組みながら連携して大きな力にしたいですね。

中野 民夫 (なかの たみお)

会社勤務の傍ら、ファシリテーションの講座や、人と自然をつなぎ直すワークショップを実践。Be-Nature Schoolや明大・立教大などの講師。著書に『ワークショップ』『ファシリテーション革命』など。



### ESDが気づかせてくれた活動の価値

NPO法人キーパーソン 21 朝山 あつこ

誰にでも、一人にひとつ、必ずよいところがある。子どもたちが、そんな自分を発見し、自分の役割を見つけ、社会のなかで力を発揮できることを願って、当会では、将来の生き方や職業について考えるためのゲーム「ハッピーキャリアプログラム」を開発。全国各地で実施支援しています。プログラムをとおして子どもたちの目が輝く瞬間が活動を続ける力になっています。

とはいえ、子どもの成長には時間がかかり、すぐに結果のでもものではありません。ときに活動がささやか過ぎるようになってしまっても……。そんな折、ESDと出会いました。一人ひとりが主体的に社会参加し、よりよい未来を築くための教育であるESDは、まさに私たちの活動そのもの。改めて活動の意味に確信をもった次第です。これからも、キーパーソン 21はESDとともに歩んでまいります。

朝山 あつこ (あさやま あつこ)

NPO法人キーパーソン 21 代表理事。3人の子どもの母親。「子どもたちに夢と職業意識を運びたい」という願いのもと、同団体を設立。2005年度より、経済産業省「地域自律民間活用型キャリア教育プロジェクト」事業を推進している。



暮れはひたすら大掃除の毎日でした。でも、なかなかすっきりしないのは、思い切って捨てることのできないから。結局そのまま年を越しました。さて、ESDレポートの発行は二ヶ月に入りました。毎回、筆者、事務局、編集者が、想いの詰まった原稿を紙面の都合でやむなく切り詰めて掲載しています。その代わり、ウェブではほぼ全文掲載。うちにもいくらでも詰め込める物置がほしいです。(河村久美)

## 特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

URL <http://www.esd-j.org/> e-mail: [admin@esd-j.org](mailto:admin@esd-j.org)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中: 正会員 (10,000 円)、準会員 (3,000 円) 詳しくはHPをご覧ください ●



発行: NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集: ESD-J 情報共有プロジェクトチーム レイアウト: 河村 久美

この冊子は地球環境基金の助成により制作されています



## 団体正会員

- 財アジア女性交流・研究フォーラム
- 財アジア太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)
- 財オイスカ
- 財キープ協会
- 財京都ユースホステル協会
- 財日本環境協会
- 財日本自然保護協会
- 財日本野鳥の会
- 財日本ユニセフ協会
- 財日本YMCA 同盟
- 財ボーイスカウト日本連盟
- 財野外教育研究財団
- 財ユネスコ・アジア文化センター
- 財ガールスカウト日本連盟
- 財日本環境教育フォーラム
- 財日本ネイチャーゲーム協会
- 財日本ユネスコ協会連盟
- 財農山漁村文化協会
- 財部落解放・人権研究所
- 国立学校法人 岩手大学
- 国立学校法人 筑波大学 農林技術センター
- 国立学校法人 北海道大学
- 学校法人 日本自然環境専門学校
- NPO 法人 いきいき小豆島
- NPO 法人 岩木山自然学校
- NPO 法人 ADP 委員会
- NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM)
- NPO 法人 ECOPLUS
- NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
- NPO 法人 オーシャンファミリー海洋自然体験センター
- NPO 法人 開発教育協会
- NPO 法人 環境市民
- NPO 法人 環境文化のための対話研究所
- NPO 法人 キーパーソン 21
- NPO 法人 くすの木自然館
- NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター
- NPO 法人 国際ツーリズム協会
- NPO 法人 国際自然大学校
- NPO 法人 コミネット協会
- NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
- NPO 法人 しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)
- NPO 法人 自然育児友の会
- NPO 法人 自然体験活動推進協議会
- NPO 法人 自然体験共学センター
- NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
- NPO 法人 白神自然学校一ツ森校
- NPO 法人 生態教育センター
- NPO 法人 タッシュ
- NPO 法人 タブララサ
- NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
- NPO 法人 地球と未来の環境基金
- NPO 法人 地球の未来
- NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティ
- NPO 法人 奈良県環境ネットワーク
- NPO 法人 ほっとねっと
- NPO 法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
- NPO 法人 やまぼうし自然学校
- アースビジョン組織委員会
- ESD in 三重
- ESD 未来教育研究会
- エコテクノロジー研究会
- エコプラットフォーム東海
- OAK HILLS (オークヒルズ)
- 岡山市役所 (東京事務所)
- 岡山ユネスコ協会
- 環境 NGO アジア環境連帯
- 環境・国際研究会
- くりこま高原自然学校
- 国際子どもフォーラム岡山
- 国際理解の風を創る会
- 「心のアラスカ」～星野道夫の思いを繋ぐ
- サステナブル・コミュニティ研究所
- 識字・日本語連絡会
- 自然文化国際交流協会
- 持続可能な開発のための教育の10年醸造学園大学委員会 (ESD-R)
- 「持続可能な社会と教育」研究会
- 森林たくみ塾
- スリーヒルズ・アソシエイツ
- 世界女性会議岡山連絡会
- 全国学校給食協会
- 仙台いけね研究会
- 創価学会平和委員会
- ソーラーエネルギー教育協会
- 地球環境・女性連絡会 (GENKI)
- 地球環境を守る会「リーフ」
- TVE ジャパン
- 帝塚山学院大学国際理解研究所
- とやま国際理解教育研究会
- 日本アウトドアネットワーク
- 日本環境ジャーナリストの会
- 日本ホリスティック教育協会
- ハーグ平和アビール平和教育地球キャンペーン
- ホールアース自然学校
- 緑の環・協議会
- 立教大学 東アジア地域環境問題研究所
- 南バースセス研究所
- 南プラス・サーキュレーションジャパン

(2006年12月31日現在 計97団体)